



(縁・円・援)

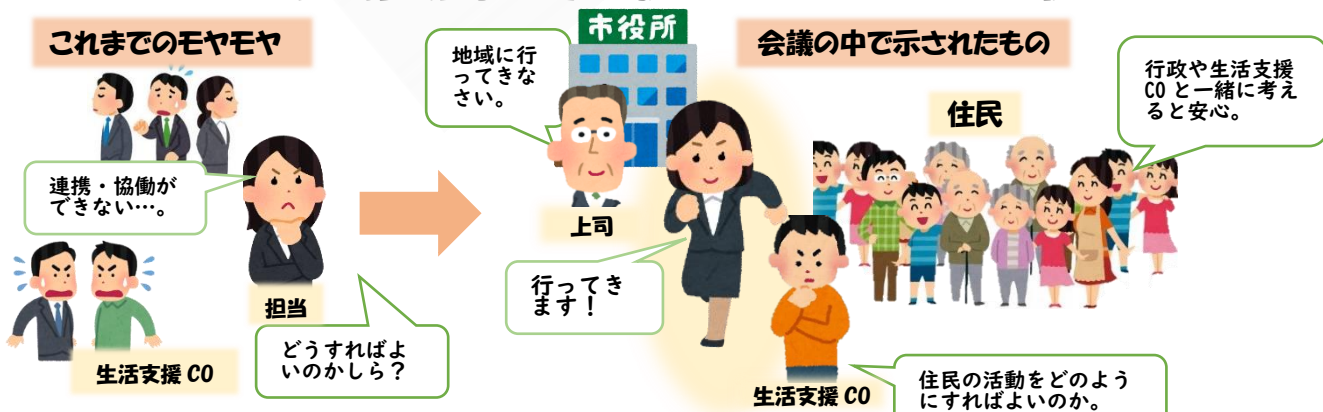
# 兵庫えんだよい

このニュースレターは、市町社協の生活支援コーディネーター、住民等が創意工夫しながら行われている生活支援、地域活動をお伝えするために発行いたします。

## ～行政担当者と生活支援 CO のつながり方～

令和4年7月19日、生活支援体制整備事業市町担当者・管理者会議が開催されました。今年度は、一番基本となる受託者の行政と委託者の生活支援 CO の関係について考えてみました。本来であれば密な関係のもと、事業が遂行されるべきところ、うまく連携の前のコミュニケーションも取りにくいという深刻な声を聞いていました。今回は、2年目の2か所の行政担当者から、大切なことを学ばせていただきました。

## 生活支援体制整備事業市町担当者・管理者会議開催



1. 参加者 68名 (内オンライン33名)

2. プログラム

【基調説明】

「生活支援体制整備の今後の展開について」

報告者：兵庫県福祉部高齢政策課 課長 田畑 司 氏

【実践報告・討議】

「行政担当者と生活支援 CO のつながり方」

報告者：宝塚市健康福祉部地域福祉課 係長 池本 祐子 氏

相生市健康福祉部長寿福祉室 主任

第1層生活支援コーディネーター 杉本 裕美 氏

## 生活支援体制整備事業の目指すもの

兵庫県行政

- 生活支援体制整備事業のあるべき姿は参加の場を増やす等、環境を整えていくゼロ次予防の視点、社会的孤立を防ぐことである。
- 協議体の設置にあたっては、形式的に設置するのではなく、既存の協議の場も有効に活用する。
- 何より大切なのは住民が主体となって柔軟に仕組みをつくっていくプロセスを支援する。
- 「兵庫県生活支援体制整備事業の手引き」の活用を推奨



兵庫県 田畑課長

※今回は、紙面の関係上、報告を抜粋し掲載しています。基調報告、各市の報告資料につきましては、各参加者もしくは県社協にお問い合わせください。

【発行元】(令和4年9月5日発行)  
〒651-0062 神戸市中央区坂口通2丁目1番1号  
兵庫県社会福祉協議会 地域福祉部  
TEL 078-242-4634 FAX 078-242-0297  
E-Mail: chiiki-2@hyogo-wel.or.jp (担当：小山・永坂)

# 新人担当者の活動から、見えてきた 行政担当者と生活支援 CO のつながいの5つのポイント

(県社協：福本部長まとめより)



昨年度から  
行政の担当

宝塚市 池本氏



昨年度から  
行政で一層 CO

相生市 杉本氏



県社協 福本部長(進行)

## 1. 日常的に連絡を取り合うこと がある (お互い動いているから こそその結果)

- 自組織より多く、毎日、連絡を取り合っている。CO の重要な言葉を 1 層 CO の”早瀬さん語録”として残している。(宝塚市)
- 毎日、短い情報交換と常に新しい情報提供を行い、不在の時は CO の机に付せんをビッシリ (相生市)

## 2. 一緒に動く。

- 地域の思いを CO と一緒に考え、CO も孤立させない。一緒に動くと、住民の思いを報告書だけでなく感じる事ができた。(宝塚市)
- 1 層 CO だが地域の一部を担当。地域のことがわからなければ市域もわからない。(相生市)

## 3. わがまちをよくしたい確固たる 思いがある。

- 地域福祉課、全職員でかわる情熱を引き継ぐ。他課との関係づくりの橋渡し役ができる (宝塚市)
- 活動者の声をじっくり聴く会議。つぶやきを事業に展開。住民ニーズと一緒に考えるのは行政の基本そのもの。(相生市)

## 4. 所属部署の理解、上席の理解 がある。

- 市職員が地域に出向く重要性、7つの地区に担当職員。
- 課長からは頭で考えず社協と動きなさい。(宝塚市)
- 地区担当職員を置く。どの事業においても地域の声を聴くことが大事 (相生市)

## 5. 社協とのパートナーシップ

- 代々の上司が庁内を出て社協と地域で一緒に動こう、楽しんでいこう、社協の専門性を尊重し、後方支援しようを継承。(宝塚市)
- 社協から、地域づくりの今までの流れを聞く。常に CO と社協は情報交換 (相生市)



宝塚市社協 1 層 CO：早瀬氏  
相生市包括 2 層 CO：庵奥氏・安井氏  
にも登壇いただき議論を深めました

## 市町活動紹介

### 柏原地域支えあい推進会議版 情報共有シミュレーションゲーム(丹波市社協)

平成 28 年から柏原地域支えあい推進会議で検討を続けてきました。めざすものは、これからの地域の変化の先読みです。これからは支援が必要な高齢者が増え、担い手だけでなく、参加もできにくく、80 歳代の単身の高齢者が一番増えます。このような中で、誰かが情報を抱えるのではなく、情報を共有していくために、「ルールづくり」と「つながりの構築」が大切になります。このゲームは、きっかけづくりですと説明されました。

ゲームは、約 50 名の住民が参加され、大地震が起きた後、避難所が開設された想定。手元には意図的に数年前の名簿や、カードには災害前後に見聞きした情報を口頭で伝えるルール。地域の住民の安否やケガ等への対処等、次々と起きる難題に住民として何ができるか開発されています。

最後に、地域では、認知症や外国人、支援が必要な人等多数おられます。実は、つながりのない方が一人亡くなっていたと明かされ、命を守るために、つながっていく、みんなの情報をつなぎ合わせる、自分のことも発信する等が大切だと結ばれました。

【地元新聞でも紹介されました】  
<https://onl.la/PVwDkwM>

みなさん、真剣！  
あっという間の 2 時間でした。



話し合いを見える化していくことでつながりが広がる



## お知らせ

生活支援 CO 基礎セミナー開催

9 月 28 日 (水) 10:30~16:30

10 月 11 日 (火) 10:30~16:30

【編集後記】今回は、行政と生活支援 CO のつながりについて話を聞き考える機会となりました。委託受託の関係ではなく、お互いに「このまちをよくしたい」という確固たる思いがあるかと問われ、真摯に振り返りたいと思います。丹波市の取り組みでは、自治会長が長年の、話し合いを通して、若い生活支援 CO の成長を見つめ、楽しみにしておられる一面も見えました。あらためて、地域で、行政、専門職等の立場関係なくつながることの多様な効果と重要性を感じました。